

2018年10月25日

行動経済学会第12回大会サテライト・ワークショップのお誘い

行動経済学若手ワーキンググループ

拝啓

秋冷の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、来る12月8日、9日に開催されます行動経済学会第12回大会に先立ちまして、大会前日の12月7日(金)に有志によるワークショップ「**行動経済学は実務に活用できる**とはどういうことか?」を企画いたしました。このワークショップは、行動経済学に関心のある研究者間で、活発な議論を通じてお互いの興味や知見を共有し、行動経済学に対する理解を深めることを目的に開催されます。登壇いただく講演者による問題提起を基調にして参加者全体で議論を積み重ね、各々の問題意識の掘り下げと新たな視点への気づきが芽生えるような会にしたいと考えております。

学会直前のご多忙な時期とは存じますが、奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。また、関係各位への周知等にもご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

敬具

1. 目的

活発な議論を通じてお互いの興味や知見を共有して、行動経済学に対する理解を深めることを目的とする。

2. 行動経済学若手ワーキンググループ

小島健(一橋大学)、窪田康平(中央大学)、黒川博文(同志社大学)、高阪勇毅(福山大学)、後藤晶(多摩大学)、佐々木周作(京都大学)、田村輝之(京都経済短期大学)、中村隆文(釧路公立大学)、林良平(東海大学)、森知晴(立命館大学)、山根承子(近畿大学)

3. 日時・場所

慶應義塾大学・三田キャンパス

アクセス：<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

(詳細な教室名と配置図は、決定後に本PDFを差し替える方法でご案内いたします)

2018年12月7日(金) 15:00~17:00 (14:50 受付開始)

4. ワークショップ概要

テーマ：「“行動経済学は実務に活用できる”とはどういうことか？」

司 会：佐々木 周作（京都大学・特定講師）

登壇者：

黒川 博文氏（同志社大学・日本学術振興会特別研究員 PD）

「企業を蝕むバイアス：行動経済学的特性の把握のススメ」

西田 貴紀氏（Sansan 株式会社・Data Strategy & Operation Center R&D グループ研究員）

「ビッグデータ時代における新しい社会科学のカタチ：Sansan Data Discovery の挑戦」

5. 企画趣旨

行動経済学の研究成果は、政策立案や民間企業の経営判断や業務改善に活用できる、という見解がある。既存の行動経済学研究には、学術的に貢献することだけでなく、実務的に貢献することも重要な目標に掲げて実施されているものが多く存在する。

一方で、行動経済学の研究成果が、具体的に、どのような場面で、どのように活用できるのか、と問われると回答が難しくなる。行動経済学研究者が、官公庁や民間企業と共同研究を行い、その研究成果の実務活用を目指す場合、共同研究の完遂には一定程度の時間が必要となる。そのため、共同研究の終了時には、その研究成果の実務的な価値が下がっている可能性もある。

本ワークショップでは、二名の登壇者の発表と参加者同士の意見交換を通じて、行動経済学が実務に活用できるとはどういうことなのか、について具体的なイメージを掴むことを目指す。

一人目の登壇者・黒川博文氏には、行動経済学研究者として、過去の民間企業との共同研究を紹介してもらいながら、その研究成果が、共同研究先企業の経営判断や業務改善にどのように活用されたか、あるいは、活用されうるかについて考察を行ってもらう。

二人目の登壇者・西田貴紀氏には、民間企業の研究員として、過去・現在進行中の大学研究者との共同研究を紹介してもらう。Sansan 株式会社は、近年、行動経済学を含む社会科学分野の研究者を積極的に雇用したり、社会科学分野の大学研究者と協力して共同研究を実施したりする意向を示している。その目的や大学研究者との共同研究に期待することなどについて見解をもらう。

6. 対象

- 主として、行動経済学に関する研究を行っている研究者・学生。
- 身分や年齢、経歴は問いません。お気軽にご参加ください。

7. 参加方法

- 当日会場へお越しください。
- 本ワークショップでは、聴衆も自発的に議論に参加できます。基調講演のテーマに関連して予め述べたい主張等がある方は、司会（佐々木：ssasaki.econ@gmail.com）までご相談いただきますと当日の進行がスムーズです。